研修報告 A グループ 3 班　アフター5

1. 大学の役割

大学の役割について各々の意見を挙げたところ、ほぼ共通として「人材の育成」というキーワードが挙がった。どのような「人材」であるかについては、国際社会で活躍するための語学力、コミュニケーション能力を有した人材、専門知識を有した人材、社会人としての基礎的な力のある人材、と様々な意見が挙げられた。
そこで社会人としての基礎的な力とは何かに着目し、経済産業省が定義している「社会人基礎力」を参考にした。経済産業省によると、「社会人基礎力」は大きく分けて以下の 3 つの力を指している。

- 前に踏み出す力（アクション）
- 考え抜く力（シンキング）
- チームで働く力（チームワーク）

2. 大学の現状

大学の現状について討議した結果、学生側が抱える問題点として主に以下の意見が挙がった。

＜学生の問題点＞

- 学生の受け身思考
- 学習意欲が低く消極的

＜理由＞

- 学生の授業内容に対する興味が薄い
- 目的が単位修得
- 教員と学生間のコミュニケーション不足
  - 学生の発言機会が無い
  - 授業評価アンケートの内容が反映されない

これらの現状を踏まえ、今の学生には社会人基礎力の中でも「考え抜く力」が不足しているのではないかという意見が出た。そこで我々のグループでは「『考え抜く力』を身に付けた人材の育成」をテーマとして、問題点の解決策を検討した。

3. 問題点の深堀

学生に「考え抜く力」を身につけさせるためには、以下の 3 点が必要であると考える。

- 学生のやる気を促す
  学生が積極的に授業に参加したり、自学自習を行ってもらうためには、まずは学生のやる気を促すことが肝心である。
- 環境の整備
  学生には自学自習の時間が足りていないため、「考え抜く力」を身に付けられていないと考える。そこで自習スペースやラーニング・コモンズの整備、録画授業の配信等、学内に学修環境を整備し提供する。
- 用意した環境を利用してもらうための周知
  自分の大学にどのような施設があり、それをどのように利用するのか知らない学生が多い。大学が用意した環境を最大限利用してもらうため、新入生オリエンテーションやゼミの時間を使い、学生にその設備の利用方法等を周知する。

しかし学生のやる気を促すにも、授業が一方的なものであったり、授業評価アンケートの結果が反映されなかったり、授業改善に対する意識が教員間でバラつきがあるといった問

題点がある。
学生の興味を引き出し、授業に対する学生の意見・要望を反映させるためには、まずは教員の意識改革が必要であると考える。教員が従来の自分の授業スタイルを見直し、学生の学習意欲を引き立たせるための授業を実施するための仕組みを検討した。

4. 解決策の検討

教員の授業に対する意識改革を図るための方策として、以下の 2 点を検討した。

- 毎月の授業評価アンケート実施
  ほとんどの大学で学期末の授業評価アンケートを実施しているが、そこで描かれた意見が反映されるのは早くても次学期の授業である。学生の意見を素早く授業改善につなげるため、授業評価アンケートを毎月実施する。
- 授業を改善した教員の評価
  授業評価アンケートを活用し、授業改善につなげた教員を大学が評価する仕組みを作る。評価の方法は表彰（例えば教育貢献賞）や研究費の増額など、様々なものがある。教員の研究業績だけでなく、授業の内容も大学がしっかりと評価できる制度を作ることで、教員の意識を授業改善に向けることができると考える。
  また、対外的にアピールできるような授業評価の制度ができれば、その授業を大学ホームページや大学案内誌等で取り上げ、大学広報につなげることもできる。

しかし上記の提案には、以下の問題点が挙げられる。

- 事務処理の負担増加
  毎月アンケートを実施、教員へのフィードバックを行うことで、事務処理の負担増加が考えられる。これを軽減するため、ICT 導入についても検討していく必要がある。
- 授業評価アンケートの質問項目の見直し
  現状の授業評価アンケートで、はたして授業の改善度が分かるのかどうか、質問項目の見直しが必要である。また、“人気のある授業＝単位の修得のしやすさ”とならないような質問項目を検討する必要がある。

今回の討議では「考え抜く力」を身に付けた人材を育成するための方策の一つとして、授業改善に向けた教員の意識改革を促す仕組みを検討した。学生のニーズがうまく反映され魅力的な授業が反映されれば、学生の積極性や学習意欲も向上すると考える。質の高い授業や自習学習の中で自ら課題を発見し解決していく力が身に付くことで、学生の考え抜く力の育成が期待できる。

5. まとめ

今回は授業評価アンケートの活用を主に討議したが、教員への拠り所が大きく、事務職員としてどのように大学改革に取り組むかまでは踏み込んで議論できなかった。しかし、今回テーマに掲げた「考え抜く力」を身に付けた人材を育成するためには、教員・職員が大学の現状・問題点を共有し、改善に向けて協同で取り組む必要があることを学んだ。
また、今後の業務の中ではサービスを提供する側の視点だけではなく、そのサービスを利用する学生、または教員の視点からも問題点を分析し、解決策を提案できる姿勢を身に付けたい。

以上